

# 令和元年度 スクールコンサート

## 渡辺知子一座 **生命が光る** ～決して決して決してあきらめない～

生きるすばらしさや命の大切さを音楽を通して活動を続ける渡辺知子さんと渡辺知子一座のみなさんによるスクールコンサートは、今年で13年目を迎えます。

毎回、スクールコンサートのスタートは、14:00です。リハーサルから参加した司会役の生徒の緊張した声が聞こえてきます。そして校長先生のご挨拶。いよいよ本番です！



### ♪ 開催校 ♪

9/24(火) 吉田中学校 11/27(水) 高見中学校  
 10/ 8(火) 大蔵中学校 11/29(金) 穴生中学校  
 10/24(木) 沼中学校 12/ 6(金) 本城中学校

生徒たちの視線がステージに集まります！

1曲目のオリジナル曲『My Friend 北九州』を全員で、手話で歌った後に、渡辺知子さん（以後知子さん）が、しのん君と葉奈ちゃんを紹介をしました。「葉奈ちゃんは思永中学校の3年生。しのん君は発達障害があり、門司の特別支援学校の高等部に通っていてみんなより少し勉強を覚えることが遅いです。彼は、彼の時計を持っています。すばらしい個性を持っています。それは音楽と優しさの心です。今日はみんなとほとんど同年代の葉奈ちゃんとしのん君にお手伝いをしてもらいながら、コンサートをします。」ますますみんなの目が、ステージにくぎ付けになりました。



一座のメンバー、レンコンの出番です。生徒たちみんなに拍手のボランティアをしてもらいます。拍手の音で、レンコンは方向と人数がわかります。「見えていること、聞こえていること、生きていること、すべて当たり前なことじゃなく奇跡なの。でも、見えない人、聞こえない人、車いすの人も、不便なことはあっても決して不幸じゃない。不便なときは、さっきの拍手のように、出来る人が手を差し伸べる…。自分がもしも見えなかったらこうしてほしい、こうされたらつらいうって、優しさの心で接してみてください。」と話します。コンサートは、続きます…



そして、橋本たかしさんと盛迫ひろしさん。同じ曲を演奏しても、その場の雰囲気や演奏内容も、生徒のどのあたりを移動しながらソロをしたらいいかを見極めながらプレイしています。プロの演奏するオカリナやフルートの音色、ドラムやジャンベのリズムに生徒たちが身を乗り



出し聞いています。「私たちは、いつも全員コンサート中に4～5回、着替えをします。聞く方に、曲のイメージを衣装でも感じてほしい。最後までステージを見て、聞いて、感じてほしいからです。」様々な衣装に身を包んだ知子さんたちはステージで輝きます。



毎年、演奏曲や手話歌など、新曲を作ってスクールコンサートで発表されていますが、今年は超難曲の“太鼓曲”を披露してくれました。『炎』という曲です。

プロの3人以外は楽譜を読めないのです、とにかく「決して決して決してあきらめない！」を繰り返しました。」と知子さん。

葉奈ちゃんは、この曲でジャンガラだけでなく太鼓も叩けるようになりました。レンコンは、サリドマイドの薬害で両腕と視力がありません。初めて彼女に会う人は、『この人はステージで何が出来るのだろうか』と疑問を抱きます。

ところが、笑顔いっぱいのトーク、そして足で太鼓を見事に叩く！まずその姿に驚き、感動します。「私たち一座で頑張る、障害のある人、普通の主婦、学生のあきらめず頑張る姿に感動してくれるのです。厳しい練習についてきて、あきらめなかったから今があります！」知さんは熱く伝えます。



渡辺知子一座が必ず歌う曲

『きのうきょうあした』は、

筋ジストロフィーの青年が

作詞、渡辺知子作曲の歌です。27歳で亡くなった彼の分も、命を大切に

してください…と、命がリセット出来ないことを伝えます。「私達の発する

想いを吸い取り紙のように聞いてくれるみんなの姿、お礼の言葉に毎

回こちらが感動します。」と知子さん。

ありがとうございました

フィナーレでは生徒の中に全員で入って行き、生徒の中からレンコンのフォローをする人を見つけます！

生徒みんなが仲間になります！間に入って行って固く握手をします。『生きています』ことへの感謝の気持ちが参加生徒全員の人に響き、本年度もまた、沢山感動の声が届いています。



## 参加生徒の感想文から

僕が渡辺さんの立場だったら、同じように夢に向かって、努力し続けることができたでしょうか。その生き方は、とても素晴らしいと思いました。「夢」は人の「心」と「行動」を変える、とても大きな力をもっていると学びました。「夢」に向かって僕も進んでいきたいです。(中学1年生)

何事も諦めなければできるということを一座の人たちから学びました。渡辺さんが言われたように「Dがつく言葉-だって・でも・どうせ」を使わないように心がけます。皆さん、これからたくさんの人に、音楽で勇気を与えてください。応援しています。(中学3年生)

コンサートに本当に感動しました。私は、何気ない日常のありがたさに気付けない人でした。渡辺さんの話を聞いて、自分が情けなくなりました。日常をありがたく思えることが本当に大切なことだったのだ、このことが強く胸に響きました。明日から、何か自分が変わる気がします。(中学3年生)

レンコンさんが登場された時、驚きました。それは重度の障害があるということではなく、にもかかわらずポジティブで明るかったからです。そこに達するまでどれだけ厳しい道のりだったのか、僕には計り知れません。尊敬の気持ちでいっぱいです。明日への希望をもつことができました。そして、困っている人には、手を差し伸べよう。今回、改めてそういう思いを強くしました。(中学3年生)

私が今、生きていて、泣いたり、怒ったり、笑ったりできるということが幸せなことなのだと改めて思った。生きたくても生きられない人、したいことができない人もたくさんいる。だから私は自分を大切に生きていかなければならない。また、私の周りには私を大切に思ってくれている人がいる。私が笑顔で過ごせるのはその人たちのおかげだ。私もその人達を大切に生きていきたい。(中学3年生)

スクールコンサートの鑑賞を通して、渡辺知子さんの歌や言葉から夢と希望をいただきました。また、一座の皆さんの人を感動させる演奏は、迫力があり本当にかっこよかったです。そして、皆さんは始めから終わりまで笑顔で、皆さんから太陽のような温かさを感じました。(中学1年生)